

梅棹忠夫著「日本とは何か - 近代日本文明の形成と発展 - 」NHK ブックス 500

日本放送出版協会 1986年5月20日刊を読む

日本とは何か - 近代日本文明の形成と発展 -

1. 日本は、近代化の優等生であるといわれています。わたしは、世界の各地において、なぜ日本だけが近代化に成功したのか、その秘密をしりたいという質問をしばしばうけます。しかし、その質問自体がおかしいのです。近代化に成功したのは日本だけではありません。イタリアも成功しました。ドイツもイギリスもフランスも成功しました。それならば、歴史的地理的条件がよく似た日本が成功したのは、あたりまえではありませんか。
2. 1868年に、日本は近代主義革命に成功しました。一般に、このできごとを明治維新という語でよんでいますが、実質的には徳川王朝の崩壊をともなう政治革命であります。この明治維新をもって近代日本の原点とみる見解が、日本のなかでも国際的にも通説になっておりますが、ほんとうはそうではなくて、日本の近代はもっとふるくからはじまっております。17世紀半ばから、19世紀の中ごろまでの200年間は、日本は、藩とよばれる数百の小国家群に分割・統治され、それぞれに小国王が君臨し、武士出身の官僚家臣団をしたがえていました。その形はちょうど、おなじ時代のドイツが数百の領邦国家にわかれていたのとそっくりです。日本では、徳川家による中央政府があり、幕府とよばれておりましたが、それはフランスのブルボン王朝に対比できる絶対主義王朝であったといえます。
3. 幕府と藩による200年間に、近代日本のほとんどすべてのものの基礎が作りだされています。全国にわたる農地の開墾、鉱山の開発、治水、道路網の発達、手工業、マニファクチャーの発展、全国的流通機構の発達などの経済的な展開のほかに、巨大都市の成立とそれにともなう行政組織の完備、また、教育機関のいちじるしい普及など、社会的な発展もまた目ざましいものがありました。江戸、つまり、現在の東京は、18世紀後半には人口100万をこえ、まさに世界最大の都市であります。また、19世紀初頭における日本人の識字率は、これまたおそらくは世界最高であったといわれております。鎖国の時代に、諸外国とほとんど交渉なしに、孤立のなかでこういう文明が形成されていたということに注目したいとおもいます。わたしが、日本の近代化は明治以後の西洋化によってもたらされたものではない、といったことの意味を了解していただけるかとおもいます。社会的、経済的には、19世紀初頭において日本の近代化は軌道にのっていたのであります。1868年の革命は、それ以前の日本の近代化によってもたらされた、ひとつの政治的帰結であったといってよいでしょう。

- 4．技術の点では、近代日本はおおくのものをヨーロッパにおうているとおもわれています。しかしそれも、日本にはほぼ同程度の技術の地盤が用意されていたからこそ、導入が可能であったのであります。それは、果樹栽培における接木のようなものです。あたらしい品種の芽を接木することによって、果実はおおきくなりましたが、土台になる台木は、あきらかにこの日本群島の大地から生えてたものだったのです。現代においても、日本は技術的にすぐれた国ですが、わたしは、その伝統は古代以来のものであったとかがえています。
- 5．17世紀以来の幕藩体制の起源は、いうまでもなく、13世紀以来の、よく発達した封建体制にもとめられるでしょう。この点も、ヨーロッパ中世の封建制とまったく平行現象をしめしています。ヨーロッパ中世の騎士に対応するのが、日本中世の武士とよばれる武装貴族団であります。封建制という言葉は、しばしば無限定に、ときには前近代的というくらいの意味でもちいられますが、厳密な意味での封建制をもったのは、地球上で、西ヨーロッパと日本だけでありました。あるいは、日本の封建制は、まったくの西欧型封建制であったということもできます。地球上のほかの地域では、中国も、インドも、イスラム世界も、専制君主をいただく巨大帝国は形成しましたがけれども、ついに日本の西欧型の封建制をつくりだすこともなかったのであります。
- 6．封建制以前の時代においても、西欧と日本とのあいだには歴史の平行現象がみられます。ヨーロッパは、ローマ帝国の辺境として、ローマ文明の影響をつよくうけました。極東世界における島嶼国家日本は、漢帝国をはじめとする中華文明のおおきな影響のもとに国家形成をおこなっております。そして、どちらも、中世における封建制の成立のころから、巨大帝国とは別の、独自の道をあゆみはじめたのでした。
- 7．それでは、どういうわけで、西ヨーロッパと日本とのあいだには、このような歴史的平行現象がみられるのでしょうか。それは中緯度広葉樹林帯に属する気候的地理的共通性、あるいは内陸乾燥地帯から出撃してくる遊牧民の破壊的暴力から安全であったなどの、いわば生態学的諸条件による説明をわたしは用意しているのですが、ここでは時間もありませんので、省略します。
- 8．とにかく、地球上はるかにはなれた場所で、おたがいによく似た地理的、歴史的条件のなかで、平行的な文明史的発展がおこなわれた。それが、西ヨーロッパと日本であった、というわけです。こういうふうにもてらえれば、日本は何者であるか、その正体を見やぶっていただけののではないかとおもいます。

[コメント]

日本文明の独自性を明確に主張なさった梅棹先生のパリでの講演録。日本人としての威信、学者生命を懸けて行われたパリでの一連の講演の速記録は、日本を知る上で極めて示唆に富む。有難い一書。

- 2010年6月29日 林明夫記 -